

第 3401 図

よどがわつつじ

一名ぼたんつつじ

*Rhododendron yedoense Maxim.*

朝鮮・対馬に産するチョウセンヤマツツジの八重咲品であるが、古くから我国で栽植され、学名の上での基本形である。落葉灌木でよく分枝し、葉は薄くヤマツツジより狭長で両端は尖り、脈は上面で少し凹み、若芽の内側の鱗片は著しく粘っている。若枝・葉・花梗・萼などには伏した毛がある。4-5月、枝先に2-3個の花をつけ、花は径5cm内外で八重咲、紫紅色で上側の弁には濃紅色の細斑点があり、少し芳香がある。萼片は長卵形で尖り長さ5-10mm。一重咲の正常品は10本の雄蕊と紫色の葯をもっているが、対馬以外我国には自生しない。



つつじ科

第 3402 図

してさつき

*Rhododendron lateritium Planch.*  
f. *laciniatum Makino*

サツキツツジの園芸品種で庭園に栽植される。枝は細かく分枝し、往々彎曲する。葉は披針形又は広倒披針形で両端尖り、長さ1-3cm、濃緑色で光沢がある。5-6月、小枝端に通常1花を開く。花梗は短く、萼片5個、小形で長さ2-5mm。花冠は一般のツツジ類と異なり、基まで裂けて5個の離れた花弁になる。花弁は朱赤色で無斑点、倒披針形でやや鈍頭、長さ2-3.5cm、巾5-7mm。雄蕊は5本、花糸は赤色、葯は暗紫色、時に退化する。花柱も赤色で長い。和名はその細裂した花冠の形がシデ（四手）に似ているサツキツツジの意味である。



つつじ科

第 3403 図

まるぼさつき

*Rhododendron eriocarpum Nakai*

琉球に自生するが、広く庭園に栽植されている常緑灌木である。枝には披針形の伏毛が密生し、葉は倒卵形又は広楕円形で先は短く尖るか又はほぼ円頭、長さ1-3cm、質厚く濃緑色で光沢があり、両面に太い伏毛を布く。5-6月、枝端に1-2花をつける。花芽の鱗片は大きく、花梗は短い。花は径4-5cm、紫紅色が普通であるが、白色、淡紅色、咲き分けなど多くの園芸品種がある。萼片は5個、小形である。雄蕊は6-10本、花糸は中部以下に小刺状突起が多い。雌蕊は1本、子房には白剛毛が密生している。サツキとは葉が巾広く円味があり、雄蕊は5本より多く、葯の色が薄いのでは区別される。和名は円葉をもったサツキの意味である。



つつじ科

きしつつじ

*Rhododendron ripense Makino*

西日本の河畔に自生する常緑の小灌木。枝は細かく分れ、若枝には白い斜上した粗毛が密生している。葉は長楕円形で長さ2-5cm、春でる葉は両端が鋭く尖り、白伏毛がある。春枝端に2-3花をつけ、花梗は長さ1-2cm、白毛と腺毛が密生している。萼裂片は披針形で長さ1-1.5cm、腺毛があって粘る。花冠は径5cm内外、淡紫紅色で上側の裂片には紅細点があり、わずかに芳香がある。雄蕊は10本、子房には白剛毛が密生している。ワカサギは本種の園芸品で花の色淡く裂片はやや細長い。その他花戸で琉球性と呼ばれて栽培されているものには、本種と他種との雑種起源による園芸的変種が多い。



つつじ科

第 3405 図

むらさきりゅうきゅうつつじ

*Rhododendron hortense Nakai*

庭園に植えられている半常緑の灌木で、枝は横にひろがり密に繁る。春葉は楕円形で両端短く尖り長さ3-6cm、浅緑色で若枝と共に両面に立った軟毛が密生している。秋葉はやや小形で先端鈍頭、濃緑色で厚く越冬する。4-5月、枝端に2-4花を開く。萼片は披針形で長さ12-20mm、花梗と共に腺毛が密生して粘る。花冠は淡紅紫色で径5cm内外、上側の裂片に紅色の斑点があり、少し芳香をもっている。雄蕊は6-10本。子房には先に腺のある白毛が密生している。モチツツジに非常によく似ているが雄蕊の数が多いため区別され、栽培起源のものと思われる。



つつじ科

第 3406 図

おおちどめ

一名やまちどめ

*Hydrocotyle ramiflora Maxim.*

我国各地に産する多年生小草本で、茎は細く地面を長くはって節から根を下す。葉は長い柄があり、円形で径1-3cm、深い心脚をなし、ごく浅く7裂し、縁に低平な鋸歯があり、殆ど無毛であるが往々柄の附着点に毛がある。夏秋、枝の上部は立ち上って葉腋から頗る長い花茎をだし、頂にほぼ頭状に小白花をつける。花梗はごく短く、花は径約1.5mm、花弁は5枚、5雄蕊、2花柱がある。果実は腎円形で長さ約1mm、分果は左右から扁圧され、背部に3条がある。ノチドメに似ているが、葉の裂け方が浅く円味があり、枝上部の花茎は葉よりも遙に長くなる。



からかさばな科